

岩手県産業教育振興会講演会

専門高校及び企業に係るイノベーションの在り方を考える

— 「人生は青天井、一生青天井」「一生勉強、一生青春」「積小為大」 —

2024年6月25日(火)


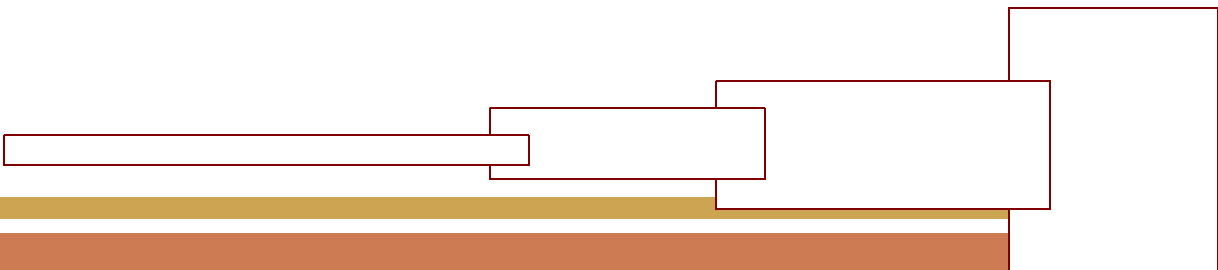
15:00～16:30

ホテルメトロポリタン盛岡
ニューウイング

開倫塾

塾長 林 明夫

(公益社団法人経済同友会 会員)



Q 1 : これからの社会はどのような社会と考えますか。

そこで求められる能力は何だと考えますか

- A : (1) 「知識基盤社会」 …… 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」
(2) 「グローバル化社会」 … 「多様な集団で交流する能力」
(3) 「課題山積社会」 …… 「自律的に行動する能力」
(4) 以上の前提 …… 「自覚をもって学ぶこと」
- ① 「教育の成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「教師の力量」
 - ・ 「本人の自覚」を促すことは、「教師の力量」に含まれる
 - ② 「主体的に学ぶ力」 (「自分から進んで学ぶ力」 「自己学習能力」)
 - ③ 「辞書・新聞・読書・図書館を活用し、読解力・思考力・表現力を身につける」
 - ④ ものごとの「価値」・「意味」・「秩序」を「自分で考える力」
 - ・ これから行おうとすることの「価値(大切さ)」を考える
 - ・ 自分にとっての「意味」を考え、「意味付ける」
 - ・ 何をし、何をしないかを「自己決定」、自分なりの「秩序」に従って行動する

Q 2 : これからの社会における高等学校教育(専門高校)の果たすべき役割とは何だと考えますか

- A : (1) ① これからの社会は、「人口激減社会」「超人手不足社会」
② 「女性」・「シニア」・「外国人材」の活躍推進が待望される社会です
③ 若手人材が極端に不足する時代が到来すると思われまますので、「地元人材の確保・育成」「定着」「継続研鑽」が最大の課題となります
④ 超長寿社会の到来が予想されますので、「生涯現役」「一生勉強・一生青春」「いつまでも学び続ける」「いつまでもスキルアップし続ける」生き方が求められます
⑤ 学校を卒業し、一度就職しても離職・再就職を繰り返す。その都度、学び直しが続く
- (2) 専門高校の卒業生の就職率は激減、4年制大学・専門学校への進学が激増、
- ① そこで、大学・専門学校での教育・研究に耐えられる「高等教育機関で学ぶ」高校生としての「基礎学力」が求められます
 - ② 2022年の大学設置基準の改訂により、すべての大学で2単位(90分15回)の1回あたりの授業につき、4.5時間の「予習・復習」が求められます
 - ③ 「予習」「授業」「復習」により「深い理解」自分のことばで言い表す(説明できること)が求められます
- * 「予習」・「復習」の仕方や「授業」の受け方、「ノート」の取り方、整理・活用の仕方
- おすすめ図書2冊
- ・ 篠ヶ谷圭太著「予習の科学『深い理解』につなげる家庭学習」図書文化社、2022年7月24日刊
 - ・ 同著「使える！予習と復習の勉強法、自主学習の心理学」ちくま新書、筑摩書房2024年3月10日刊
- (3) ① エンジニアとしての最高資格「技術士」を目指すこと
 - ・ 「多様な選択肢のある人生を歩む」
- ② 「大学」にも様々ある

- ・放送大学
- ・通信制大学
- ③専門学校の中にも大学編入可能な学校もある

＜提案＞岩手県内の専門高校のすべてが地元大学等と提携し、2年制の専攻科をつくり
大学編入を可能にすること

- ・大学卒業後は大学院へ

(4)「教育の目的」とは

- ①「よく生きること」「人生の成功」
- ②「多様な選択肢のある人生」を
- ③「正常に機能する社会の形成に貢献」

○参考

- ・プレハーノフ著「歴史における個人の役割」岩波文庫
- ・内村鑑三著「後世への最大遺物・デンマーク国の話」岩波文庫、岩波書店
- ・同著「代表的日本人」岩波文庫、岩波書店

Q 3 : これからの専門高校の課題は何ですか

A : (1)①「外国人留学生」や「外国出身者」を高校生として大幅受け入れ

②日本語教育の充実

(2)卒業生全員を岩手県内企業・大学・専門学校に進学させること、そして、全員を岩手県内企業・団体に、自分からすすんで就職させること

①そのために岩手県の「価値」、歴史・伝統・素晴らしさをできるだけ正確に伝える教育プログラムを

②中学生の「マイチャレンジ」に引き続き、高1～高3までインターンシップの充実を(大学進学に強い普通科高校もインターンシップを)

③岩手県内大学・専門学校との高大連携

(3)岩手経済同友会や商工会議所、経営者協会、中小企業中央会や各業界団体と連携強化を！

Q 4 : 生産性向上はどのように行ったらよいのですか

A : 「生産性を向上させるために」…「チャート」で御説明します

Q 5 : イノベーションはどのように進めたらよいのですか

A : (1)「マーケティングの4P」と「その顧客に対する意味(4C)」とは

＜マーケティングの4P＞	＜顧客にとっての意味(4C)＞
①Product(製品・サービス)	…顧客の問題解決(Customer Solution)
②Price(価格)	…顧客のコスト・負担(Customer Cost)
③Place(場所・流通)	…顧客の利便性(Convenience)
④Promotion(販売促進・広報)	…顧客とのコミュニケーション(Communication)

(2)「顧客」とは誰か…顧客の「定義」

- ①「事業領域」
- ②「トレードオフ」(やらないことを決める)
- (3)「イノベーション」とは
 - ①「今まであるもの」や「新しいもの」を組み合わせて、新しいものづくり、新しい仕事の仕方を広めること
 - ②イノベーションの担い手：イノベーター(企業家)
- (4)「両利き経営」…一本足打法からの脱却

Q 6 : 先生としての勉強の仕方

A : (1)(知識・専門職としての教師)

- ①「レessonプラン」を用いた授業設計
- ②「本日の Can Do」
- ③「板書」
 - 「一人模擬授業」
 - 「レessonプラン」は「先生としての成長の記録」
- (2)ものごとの本質的理解
 - ①「予習」「授業」「復習」で「深い理解」に導く
 - ②「深い理解」とは「自分のことばでいえる・説明できる」
 - ③ (「発音練習」「音読練習」と「暗唱」
「書き取り練習」と「暗記」、「計算・問題練習」)
 - ④「知識にアクセスする力」…「図書館教育」
- (3)自分で「考える力」を育てる…基本は「読解力」(正確に、分析的・論理的に読み解く力)
 - ①「ことばは力」「語彙力」…<辞書教育>
 - ②「自分で考える力」「批判的思考能力」(クリティカルシンキング)…<新聞教育>
 - ③「思考力」「表現力」「思慮深さ」「省察力」…<読書教育>
 - ④「知識にアクセスする力」…<図書館教育>
- (4)「自覚を促す」

「教育の効果を決定する要因」=「本人の自覚」と「教師の力量」

- ①<「自覚」を促すとは>
 - 「自分でできること」「自分がしたいこと」「自分がしなければならないこと」を「気付かせる」
- ②内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」
同著 「代表的日本人」
- ③「読書教育」として「伝記」を紹介
「スマホ好き」には「スティーブジョブズ」の伝記を
- (5)教育の本質
 - ①ジョン・スチュアート・ミル著「大学教育」岩波文庫

②オルテガ・イ・ガセット著「大学の使命」

* 同著「大衆の反逆」岩波文庫

Q 7 : 最後に一言どうぞ

A : 「お願い」があります

- (1)①中学校・高校・大学・専門学校の全教科の学校教科書・教材・辞書・年表・地図帳・授業ノートなどは決して処分しないで、各学校を卒業後も、一生かけて学び続けるよう御指導を
- ②各教科書で紹介されている本は、教科書編集者からの「一生かけて読み続けるといい人生が送れるよ」というメッセージ
- ③高校で学ぶすべての教科は、すべて役立つ。役に立たないものは一つもない。一生役に立つ、死ぬまで役に立つ。このことを校長先生は、生徒・保護者・教師・地域社会の人々に訴え続けてください。
- (2)①学校行事をうまく活用して、同窓会幹部とともに、同窓生も上手に御招待するしくみをおつくりください。同窓生は、生涯の友です。一生を通じて励まし合う仲間づくりを御支援ください。
- ②「入学式」「卒業式」「開校記念日」「音楽祭」などに、同窓生を「年次別」に御招待。終了後、恩師もお招きして「お茶の会」の開催を！
- ③「メールアドレスの管理」を！
- ④母校は「心の支え」「一生の宝物」です。
- (3)①「学校は校長次第」
- ②校長としての強烈なリーダーシップを発揮し、学校の未来、先生方の未来、生徒・地域の未来をお拓きください
- ③遠慮は一切不要です！！
- 校長先生同士は毎月でも交流会を！！
- 校長先生こそ「励まし合う仲間づくり」を！！

生産性を向上させるには、どうしたらよいか

◆生産性 = $\frac{\text{産出}}{\text{投入}} = \frac{\text{成果(生産高、顧客数、売上高、付加価値など)}}{\text{経営資源(人材・資本・技術・情報・土地・エネルギーなど)}}$ 開倫塾 塾長 林明夫

OutPut
(分子)

- ①「生産量・顧客数の拡大」、「売上付加価値の増大」
- ②「新商品・新ビジネスモデル開発」(イノベーション)
- ③「新市場」、「サービス」、「新しい顧客」の開拓
- ④「ブランド価値」、「企業イメージ」の向上
- ⑤「顧客満足」、「リピート率」の向上

(労働)生産性 =

InPut
(分母)

- ①時間講師を含め、「社員ひとり一人の能力開発」、「社員満足の向上」
- ②「機械化」・「自動化」・「仕組み化」(AIの活用など)
- ③「業務プロセスの改善」
- ④「デジタル技術(DX)」・「ビックデータ」の活用など

◆ポイント

- ①「働き方改革」
- ②「人材育成」
- ③「人的資源投資」



◆生産性向上を実現するには、産業・企業の実情や課題に応じて、

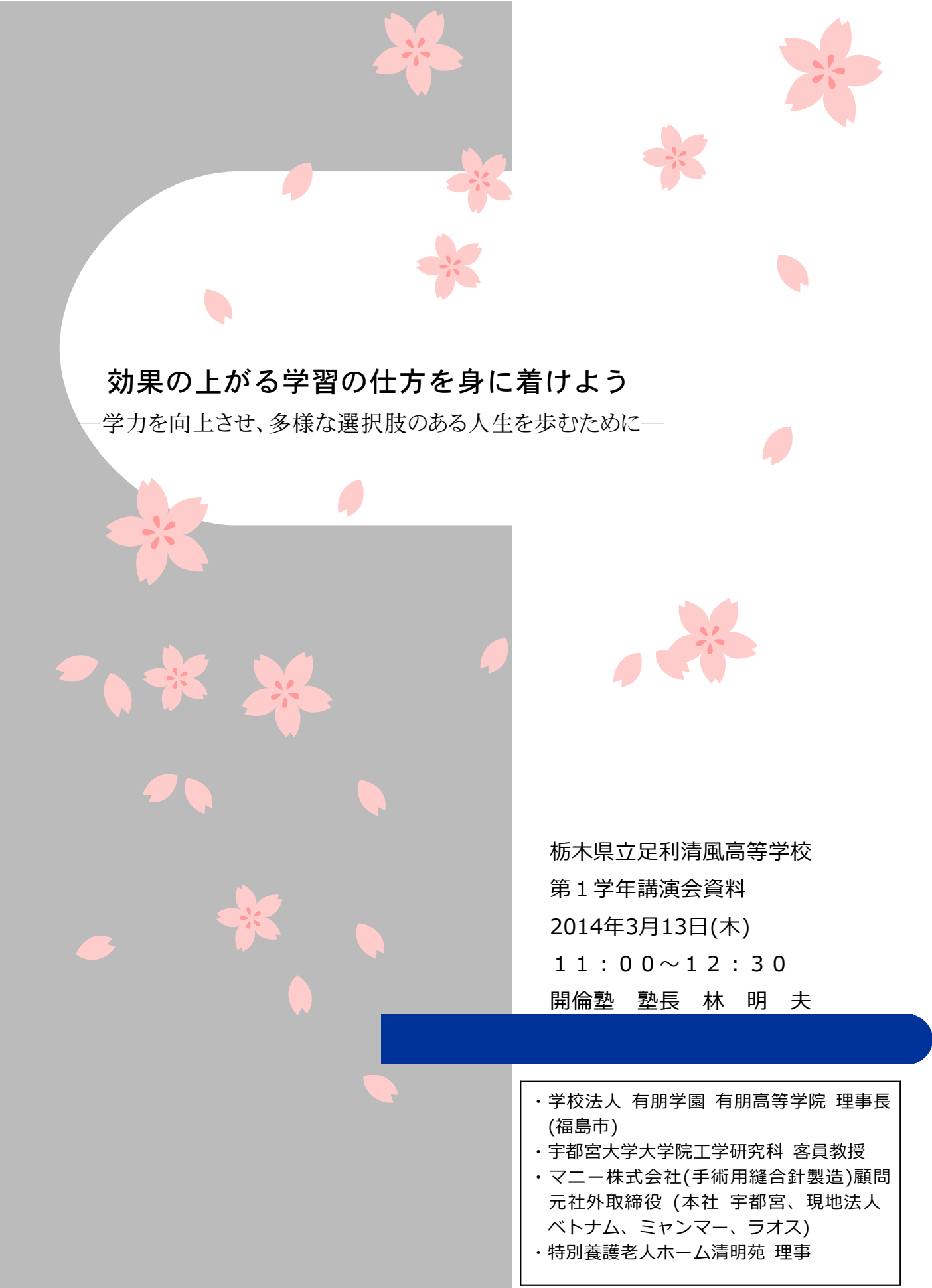
- ①より多くの「成果 (OUTPUT)」を生み出す
- ②「投資 (INPUT)」の質の改善 (または、効率化)

・この2つに取り組むことが重要

- ③投入の増加以上に産出を増加させるという着眼点が重要

○分母「投入 (インプット)」と、
分子「産出 (アウトプット)」の
増減に着目しよう!!





効果の上がる学習の仕方を身に着けよう

—学力を向上させ、多様な選択肢のある人生を歩むために—

栃木県立足利清風高等学校

第1学年講演会資料

2014年3月13日(木)

11:00～12:30

開倫塾 塾長 林 明 夫

- ・学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長 (福島市)
- ・宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・マニー株式会社(手術用縫合針製造)顧問
元社外取締役 (本社 宇都宮、現地法人
ベトナム、ミャンマー、ラオス)
- ・特別養護老人ホーム清明苑 理事

Q 1 : 高校での学習の目的は何ですか。高校での学習は、何の役に立つのですか。高校での様々な教育活動には、何か意味があるのですか。

A : (1)人は何のために学ぶのか、学力を身に着けるのか。「よく生きるため」には学力を身に着けることが大事です。

(2)「よく生きる」とは何か。2つあります。

(3)その第1は、学力を身に着けることは「人生の成功」に結びつくことです。学力を身に着ければ身に着けるほど、「多様な選択肢のある人生を歩むこと」が可能になります。「学力を身に着け、多様な選択肢のある人生を歩むこと」、「自分で選んだ人生の中」で「よく生きること」が学力を身に着ける目的です。

(4)「よく生きる」のもう1つの意味は、「学力を身に着けることで、人様のお役に立つ仕事や社会的活動をすることができる」、「仕事を通してお客様のお役に立つことができる」、ひいてはそれが「社会のお役に立つこと」につながるのです。そのような人が多ければ多いほど、社会は「正常に機能する社会」、「持続可能な社会」になります。自分自身を含め多くの人々が学校で教育を受け、学力を身に着けることは社会の発展にもつながります。

(5)だからこそ、国民は税金を用いて学校教育を支えているのです。国民の貴重な税金を用いて行っている学校教育ですので、高校で学習する内容や科目以外の高校での教育活動で役に立たないものは何一つありません。

(6)学校での学習はすべて積み重ねですので、高校1年生で学習する内容はすべて高校2年生で役に立ちます。高校で学習した内容は皆様が高校を卒業したあとに進学をする大学、短期大学、専門学校で役に立ちます。就職して仕事に就いたあともすべて役に立ちます。

(7)逆に、高校卒業程度の基礎学力が身に着いていないと、大学や短期大学、専門学校での学習にはついていけません。就職をして仕事に就いても、十分な仕事はできません。

(8)高校で学習するすべての科目を身に着け、また、高校での科目以外の教育活動に積極的に参加してはじめて、大学や短期大学、専門学校での学習がスタートできます。また、就職してからの仕事に必要なことを学習することが十分にできます。



Q 2 : エーッ、高校を出てからも学習するのですか。

A : (1)現代は知識が基盤になった「知識基盤型社会」です。高校を出たあともより多くの「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」を身に着けなければなりません。コンピュータのスキルは必要不可欠です。

(2)また、現代は国境を越えてものやサービス、人やお金が激しく行き交う「グローバル化社会」です。人種や民族、価値観、宗教、文化、言語、行動様式などを異にする「多様な人々と交流する能力」を少しずつ身に着けなければなりません。自分と異なる考えや言語をもつ人々とトラブルを起こすことなくコミュニケーションを促進することが求められます。「英語」によるコミュニケーションのスキルは必要不可欠です。

(3)さらに、現代は課題が山積する社会、「課題山積社会」でもあります。地域社会の課題、日本の課題、世界の課題は何かを自分の力で考える「課題設定能力」と、それらを自分たち

の力で解決する「課題解決能力」が求められます。最終的には、高い志をもってそれらに挑戦し続ける「自律的に活動する能力」が求められます。

(4) 以上のような 3 つの特色をもつ現代社会の各々に対応する 3 つの鍵となるような能力が求められます。高校を卒業したあとも大学や短期大学、専門学校でさらに学習することが求められます。高校や大学などを卒業し、就職して仕事を始めてからも学習し続けることが求められます。

(5) 多くの方が 105 歳ぐらいまで生きられるようになりました。そこで、人生を 3 つに分けて、35 歳までは基本的な学習を、70 歳までは専門性の高い学習を、105 歳までは人生を充実させる学習をすることが「よく生きる」ためには大切です。

(6) 特に、高校での学習内容は各科目の基礎のまた基礎です。高校でしか学習できません。高校生のうちに全科目ともまんべんなく学習してくださいね。各科目の深い内容は、高校を卒業してからも、一生かけて学習してください。

(7) 就活や大学などでの学習、また、仕事や社会的活動には、高校の学習がすべて役に立ちます。ですから、高校 1 ～ 3 年の教科書や参考書、辞書、授業中のノートは必ずとっておき、決して捨てないこと。高校での先生の授業やクラスメートの姿を思い出しながら、高校の教科書やノートを繰り返し、繰り返し読み返すこと、辞書を用いてわからないことばを調べ続けることです。人生のすべての基本は高校の教科書に書いてあります。皆様は、そのくらい大切なことを、今、学習しているのです。



Q 3 : わかりました。では、高校での学習はどのように進めていったらよいのでしょうか。

A : (1) 高校の学習で一番大切なのは、「予習」と「復習」です。

(2) ところで、大学や短期大学、専門学校に進学される皆様には、1 年を前期・後期に分けて各科目が用意されています。1 つの科目について、週 1 回 90 分の授業が 15 回行われます。その他に学期末のテストが 1 回分あります。テストの代わりにレポートという科目もあります。各科目とも 200 ～ 300 ページぐらいの教科書が用いられます。1 回の授業あたり 15 ～ 20 ページぐらい進みますので、予習をしないで授業に出ると、初めてなので「よくわからない」ことが多いようです。ですから、大学や短期大学、専門学校では 1 回の授業について 90 分以上の予習をすることが求められます。また、大学や短期大学、専門学校の授業は難しい内容が多いので、新しい内容に入る前に、それまでに学習した内容をよく「理解」した上で「身に付けておく(定着させておく)」ことが必要です。ですから、1 回 90 分の授業が終わったあとに 90 分以上の復習をすることが求められます。

(3) このように、大学や短期大学、専門学校では、授業時間と同じ長さの予習・復習が欠かせません。高校での予習・復習はその予行練習と言えます。

(4) 高校を卒業後に就職して仕事に就いたあとは、学校時代以上に別の意味での「予習」と「復習」が必要です。例えば、仕事をスタートする前には、その日の段取り(だんどり)、手順をどうするか考えなければなりません。週の仕事が始まる前にはその週の、月が始まる前にはその月の、1 つの四半期が始まる前にはその四半期の、新しい年度が始まる前にはその年度

の予習、段取り、手順を考え、万全の準備をすることが求められます。仕事は準備で結果が決まります。仕事をしながら準備をしたり、このあとどうしようなどと考えたりしていたのでは、よい仕事はできません。学校時代の予習は、仕事の段取り、準備の予行練習のようなものです。

(5) 仕事が終わったあとはどうするか。その日、その週、その月、その四半期、その年度の仕事をスミからスミまで振り返り、足りないところを補う。メモを整理する。頭に入れるべきことは入れる。反省をし、次からは同じ失敗・ミスをしないようにする。これが仕事を成功させる秘訣です。仕事における復習とは、振り返り・反省と言えます。

(6) 高校での復習は、社会に出て仕事をするときの振り返り・反省の予行練習と言えます。

Q 4 : わかりました。では、高校での予習はどのように行えばよいのですか。

A : (1) 高校から教科書を頂いたその瞬間から教科書をどんどん読み、1日も早く1冊ずつ読み終えることです。

(2) 小説を読むようなつもりで、何日間かけて全科目の教科書を全部読み終え、それぞれの大筋をつかむこと。

(3) 1回読み終えた科目から科目ごとに「意味調べノート」を用意して、よくわからないことばに出合ったら辞書や各科目の用語集を用いて調べる。調べた内容はノートに書き写す。このような作業をしながら、今度はゆっくりと1冊分を読み終えること。

(4) 数学や理科、実業科目などで計算や問題がある場合は、自分の力でノートに解くこと。計算や問題文は必ずノートに写すこと。

(5) 英語や国語、社会、理科などはスラスラとよく読めるようになるまで何回も音読すること。CDのある科目はCDを買い求めて繰り返し聴き、読む練習をすること。

Q 5 : 辞書も使ったほうがよいのですか。

A : (1) 「ことばは力」です。予習で一番大事なのは、よくわからないことばや語句に出合ったら気持ちが悪いと考えて、辞書や各科目の用語集を用いて必ず調べることです。調べたことはノートに書き写し、それを読み返して正確に覚えてしまうことです。

(2) 「国語辞典」、「漢和辞典」、「古語辞典」を大いに活用すること。

* 「古語辞典」でお勧めしたいのは、小西甚一著「基本古語辞典」大修館書店 2011年4月1日刊、1500円です。

(3) 「英和辞典」、「和英辞典」、「英英辞典」を大いに活用すること。

(4) 各科目の用語集は、例えば社会なら山川出版社はじめ各社から出版されています。

(5) 家に辞書などがなかったら、「足利清風高校の図書室」「足利工業大学の図書館」「栃木県立足利図書館」などで調べること。

* 身近なところにある図書館に毎日1回以上行き、そこで調べものをすることは大事な能力です。

Q 6 : 予習は何のためにするのですか。

A : (1)予習は、よくわからないことを自分の力ではっきりさせるため、はっきりさせてから授業に臨むためにするものです。

(2)ですから、よくわからないことばや語句を辞書や各科目の用語集、参考図書を用いてできる限り自分の力で調べることが、予習の内容となります。教科書や問題集の計算と問題はすべて書き写した上でノートに解いてみる。そして、どこがよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨む。これが予習の目的です。

(3)予習の段階でも、よくわかった、よく「理解」できた内容は「声を出して読む練習(音読練習)」や「書く練習(書き取り練習)」を繰り返し行うこと。予習の段階でも、「理解」したことは完全に身に着ける(定着させる)ことにチャレンジしましょう。予習に遠慮は不要です。どんどん予習してください。

(4)英語は、予習の段階で CD を用いてシャドーイング、つまり CD のほんの少しあとについて音読する練習を何十回も、何百回も繰り返し、最後は何も見ないで言えるまでにする。そうしてから授業に臨むことが最高の「予習」です。予習に遠慮は不要です。どんどん予習し続けてくださいね。

*ただし、教科書がスラスラと読めるようになったからといって、授業中に他人に自慢したり、威張ったりしてはいけません。練習すれば誰でもスラスラと読めるようになるのですからね。

Q 7 : 授業中はどうしたらよいのですか。

A : (1)よくわからないところを「理解」することが授業に出る目的の 1 つですから、「理解」を妨げることは一切しない。

(2)遅刻、欠席、早退、居眠り、ケータイ、ゲーム、私語、ボーッとすること、授業以外のことをすることなどは著しく自分自身の「理解」の妨げになり、時には他の人の「理解」の妨げになることもありますから、決してしない。



(3)先生目を見て、積極的に授業に臨む。必要なことはすべてノートに取る、ノートにメモをし続ける。



Q 8 : エッ、授業中はノートを取ったほうがよいのですか。

A : (1)先生が教えてくださったことで大切と思われることをすべて覚えているのは困難ですので、手が痛くなるくらいまでどんどんノートに取ってください。

(2)授業中に必要なことをメモする、ノートに取ることができるのは極めて大切な能力です。皆様は、すべてが中国語やフランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語などで行われる授業のノートが取れますか。私も含めて多くの方は、全く取れないのではないかと思います。ある言語で行われる授業のノートが取れるというのは、極めて高い言語能力をもっていることを意味します。日本語で行われる授業のノートを取る訓練を高校生のうちに行ってください。

- (3) 大学や短期大学、専門学校に進学してからも、また、就職して仕事をするときやボランティア活動をするときなどにも必要なことをノートにメモし続けることは極めて大切です。特に、仕事には決まった教科書がありませんから、必要なことはすべてメモを取り続け、あとでメモをまとめ、整理し、人との約束を果たすことが求められます。
- (4) 「授業中に必要なことはすべてノートに取る能力」を高校時代に身に付けておくことは、高校卒業後にとても役に立ちます。
- (5) ノートで大切なのは、ノートを取ったあとに使いやすい形によく「整理」することです。また、ノートを繰り返し読み直し、スミからスミまで正確に身に着けることです。ノートは1ページ目から読み返す習慣を身に着けると、いつも頭が冴え渡りますよ。試しに今日の午後の授業から、授業の直前に今までのノートを1ページから読み直してください。そのあとの授業が驚くほどよくわかりますよ。

Q 9 : 復習は何のために行うのですか。

- A : (1) 復習には 2 つの目的があります。学校の授業で終わった範囲について「理解」を深めること、また、「理解」が不足している内容について自分の力で「理解」することが復習の目的の1つです。
- (2) つまり、授業前に予習をしたり、学校の先生の授業を通じて少し「理解」できたことをもっと深く「理解」したり、先生の授業であまりよく「理解」できなかつたり、授業ではあまり触れられなかつたりした内容を授業が終わったあとにもう一度自分の力でやり直し、「そうか、これはこういうことなのか」と納得する・よくわかるまでにすることが復習の目的の1つです。
- (3) そのためには、学校の教科書や教材、問題集、授業中のノートなどを先生の授業をお聞きするようにゆっくりとていねいに学習し直し、「理解」に励むことをお勧めします。
- (4) わからないことばや語句があつたら、辞書や用語集、参考書などを用いて調べ、調べた内容はノートに書き写す。書き写したノートは1ページ目から繰り返し読み直すこと。何回も申し上げますが、「辞書の活用」が学力向上のポイントです。この復習をするにも図書館の活用が大切です。
- (5) 授業中に一度やった計算や問題をもう一度やり直すこと、授業中にやり残した計算や問題をすべてノートに解いてみることも大切な復習です。
- (6) 間違えた計算や問題でどうしても解き方がわからないものがあつたら、解答集がついていたらその解説をゆっくりとよく読んで正解と正解に至る解き方や考え方などの「理解」に努める。そして、その正解と説明を赤字でノートに書き写しておく。
- (7) その上で、できなかつた計算や問題をもう1回やり直してみる。
- *これが復習のポイントです。



Q 10 : 「復習」のもう1つの目的とは何ですか。

- A : (1) 予習や授業、第1番目の復習で十分に「理解」できたところまでをスミからスミまで正確に身に着けることです。これを「定着」と言います。この「定着」のためには、次の3つの「練習」がとても役に立ちます。
- (2) 私は、次の3つの練習を「定着のための3大練習」と名付けました。福澤諭吉先生が創設した慶應義塾の塾長に小泉信三先生という方がおら

—— スポーツの3つの宝 ——

① 「練習は不可能を可能にする」
② 「フェアプレー」
③ 「よき友」

—— 小泉信三先生 ——

れ、「練習は不可能を可能にする」という素晴らしいことばを遺されました。「定着のための3大練習」も「不可能を可能にする」。そう確信します。

Q11:「定着のための3大練習」とは何ですか。

- A : (1)第1は「音読練習」です。少し大きな声を出して教科書や教材、問題集、授業中のノートをスラスラとよく読めるようになるまで繰り返し読む練習をすることです。
- (2)できれば、大事なことは何も見ないでスラスラと言えるようになるまで「音読練習」をすること。特に「○○は・・・だ」という「ことば・語句のことばの意味」、つまり「定義」は「音読練習」をしてくださいね。
- (3)第2は「書き取り練習」です。「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようになった内容を、今度は何も見ないで「楷書(かいしょ)」、つまり教科書の書体で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。特に大切な語句のことばの意味、定義(「○○は・・・だ」)は正確に書けるまでにしておきましょう。
- (4)英語は、「音読練習」をしてスラスラと口をついて出てくるようになった英文を、「ブロック体」だけでなく「筆記体」でもきれいに書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。筆記体で書く練習をしておかないと、筆記体で書いたものが読めないことがあるからです。
- (5)第3は「計算・問題練習」です。なぜそのような解答になるのかが「うんなるほど」とよく「理解」できた計算や問題は、それを見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返すこと。答えがパツと出る計算や問題が多ければ多いほど、試験のときに「時間的なゆとり」が生まれ、自分にとって難しい問題や考えさせられる問題をゆっくりと解くことができるようになります。

定着のための3大練習

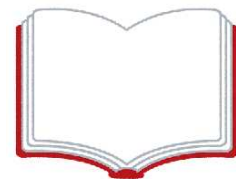
①「音読練習」

②「書き取り練習」

③「計算・問題練習」

—定着のための3大練習は不可能を可能にする—

25670 ÷ 324



Q12:定期試験で100点を取る方法がありますか。

A :あります。次の(1)~(4)を徹底的にやり抜くことです。

- (1)教科書が手に入ったら、1科目でも多く1冊すべて読んでしまうこと。
- (2)辞書などを用いて授業の予習をし、わからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと。
- (3)授業中は先生のお話をよく聞き、大切なことはすべてノートを取ること。
- (4)1つ目の復習をして、授業の内容をもう一度やり直すこと。ノートを整理すること。授業中によく学習できなかったことを自分の力で「理解」すること。

(5)復習の 2 つ目として、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための 3 大練習」をやり抜くこと。

*テストの 1～2 か月前からこの(5)をやり抜けば、高校でも、大学や短期大学、専門学校でも、誰でも定期試験で全科目 100 点が取れます。私がお示しする学習方法はすべて時間がかかりますので、試験直前では間に合いません。

Q 13：大学入試や国家試験、資格試験、検定試験などの試験に合格するにはどうしたらよいのですか。

A：(1)まずは、試験に出題される科目の標準的な教科書を、学校の先生の授業をお聞きするようになつもりでゆっくりとていねいに一語、一語、正確に読み、「ああ、これはこういうことなのか」と納得すること、「理解」することです。

(2)そして、教科書を読んでいてよくわからないことばや語句があったら辞書や用語集、参考書を用いて納得いくまで、よくわかるまで、「理解」するまで調べ、調べた内容はすべてノートに書き写す。書き写したノートは、1 ページ目から繰り返し、繰り返し読み直し、すべて正確に覚えてしまうことです。

(3)教科書にある計算や問題、学校で用いる問題集の計算や問題はすべてノートに書き写した上で解いてみることもお忘れなく。自分で答え合わせをして、間違えたり、よくわからなかったりした計算や問題があったら赤でノートに正解や解説を書き写し、なぜそのような答えになるのかを自分の力で考えることです。教科書や問題集に答えを書き込んでしまうと 2 回目の学習がやりにくくなるので、答えは書き込まないこと。どうしても書き込みたかったら、もう一冊同じものを買うことです。

(4)計算や問題を含めて教科書の内容がよく「理解」できたら、「定着のための 3 大練習」つまり「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返し行い、教科書の 1 ページ目から最後のページまでに書いてあることすべてをスミからスミまで完全に覚え切ること。

(5)ここまでの作業を自分の力でやり遂げてくださいね。



(6)いろいろな試験のために予備校や通信添削などを利用するときは、そこで用いる教材を教科書とすることをお勧めします。その教科書も(1)～(4)のやり方でていねいに学習してくださいね。

(7)専門の生々からの授業が聞ける科目については、予習・復習を十分にしながら積極的に授業に出てください。

Q 14：これだけでよいのですか。

A：(1)試験に慣れている人の中には、これだけで十分な合格点が取れる人がいるかもしれませんが、しかし、せっかく試験を受けるのなら確実に合格してもらいたいのので、「過去問」つまり「過去に出題された問題」の最低でも 5 年分以上を各々 5 回以上ノートに解いてみることです。

- (2)「大学入試センター試験」などは、「過去 15 年間に出题された問題(各年の追補問題も含む)」を 5 回以上ずつ解くことをお勧めします。
- (3)1 回分ずつノートに問題を解き、解き終えたら「解説」を読みながら答え合わせをする。なぜそのような解答になるのかを自分で考え、必要なことはノートに書き写すこと。ここまでは必ず実行してください。
- (4)このあとが大切です。「大学入試センター試験」の「問題文の本文」と「設問のすべて」、これに加えて「解答・解説の文章すべて」を「大学入試センター試験のための教科書」と考えて、各科目の教科書をゼロから学習する態度で、辞書や用語集、参考書を活用しながら一語、一語ていねいに「理解」に励むことです。
- (5)十分に「理解」したら、次はどうするか。「問題文の本文」と「設問のすべて」、「解答・解説の文章すべて」をスミからスミまで「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」すること。
- (6)大学入試センター試験なら、毎年の「追補問題」を含めて 15 年分×2 回、つまり合計 30 回分を各々 5 回ずつこの方法で学習すれば、誰でもかなりの高得点が取れます。
- (7)ただし、1 日に 1 回分以上はできませんので、5 回ずつやり抜くには最低半年はかかります。ですから、大学入試に出題される科目の教科書の学習は高校 2 年生までに済ませ、試験の 1 年前からは今お示した方法で学習することを私はお勧めします。
- (8)国家試験や資格試験、検定試験なども全く同じです。まずは、試験の半年ぐらい前までに辞書や用語集、参考書などを活用して教科書をスミからスミまで「理解」した上で、「定着のための 3 大練習」つまり「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返してスミからスミまで身に着ける、「定着」させる。
- (9)次に、公表され出版されている「過去問」の最低 5 年分以上を、できれば 5 回以上やり抜く。それもただ単に解くだけではなく、「過去問」の「問題文の本文」と「設問のすべて」、「解答・解説の文章すべて」も「教科書」と考え、辞書などを用いてスミからスミまで「理解」する。同時に、「理解」した内容は「定着のための 3 大練習」を用いてスミからスミまでの「定着」を図ること。ここまでやれば、大体の試験に合格します。
- (10)今から 3 か月先の 6 月 8 日に、2014 年度の第 1 回英語検定試験があります。今、お話しした方法で英検に挑戦してみてください。

Q 15 : 学力の高い人に共通することは何ですか。

A : (1)3 つあります。

(2)第 1 は、学力の高い人は「自覚をもって学習する」人が多いようです。自分が今なすべきことは何なのか。今、自分は何のためにこの場所にいる、何のために学んでいるのか。今、自分は何をしようとしているのか。自分が今していることの意味は何なのか。これらを自分の力で考え、今、ここでなすべきことに全力を尽くしている人は学習をするときに自覚をもってしますので、学力が高いと言えます。

(3)「自覚をもって学習する」とどうなるか。何のために学習するのかをよく自覚していますので、これでもかというくらい長い時間にわたって学習してもあまり苦になりません。いくら学習してももっと学習したくなるので、「学習時間」が自然と長くなります。1冊の教科書を学校の授業に沿って「理解」し「定着」させるのにもかなり時間がかかりますが、先生の授業なしで教科書だけで学習しなければならない場合は、1冊のすべてを「理解」した上で身に着ける・「定着」させるためには100時間以上の時間がかかることがあります。そのような「長時間」の学習に耐えられるのが「自覚をもって学習する人」です。

*仕事についても同じです。「よい仕事をする人」は「自覚をもって仕事をする人」です。何のためにこの仕事をしているのか、今、この仕事をする意味は何なのかを考え抜いて仕事をする。もっと言えば「自分の社会的使命」を「自覚」しながら仕事をする人は「よい仕事をする人」と言えます。

(4)学力の高い人に共通することの第2は、自分に合った「学習の仕方」を身に着けていることです。いつも、どのような学習の仕方をすればよいのかを工夫し、学習の仕方についても「学び」続けている人は、学力が高いと言えます。

*仕事についても同じです。「よい仕事をする人」は、いつも仕事の仕方を工夫し続けています。例えば、実際になさっている足利清風高校で皆様も熱心にお取り組みになっておられる「整理」→「清掃」→「整頓」→「清潔」→「躰」の「5S」は、「仕事の仕方についての工夫」です。このように、「5S」を含めて「仕事の仕方についての工夫をし続ける人」は「よい仕事をする人」と言えます。



(5)学力の高い人に共通することの第3は、「読書による思慮深さ」を身に着けていることです。では、何をを読んだらよいのか。授業中に先生から紹介された本や、学校の教科書で紹介されている本、学校の図書室や公立の図書館などに置いてある本は、選び抜かれた著者によって書かれた本です。その中から自分の興味・関心のある分野や著者の本で高校生として読むべき本を探し出し、じっくりと読むことを私はお勧めします。



(6)私が高校生のころは、学校の先生に勧められて、「岩波文庫」や「岩波新書」など岩波書店から出版された「文庫本」や「新書本」を毎週1冊ぐらいずつ読んでいました。

(7)あまりよくわからないものもありましたが、「岩波文庫」本を読んでこういう考えもあるのかと思ったり、「岩波新書」本を読んで現代の世の中はこのようになっているのだと考えたりもしました。

*読書の醍醐味(だいごみ)とは何か。「時」や「空間」を「超えた」「著者との対話」、「時空を超えた著者との対話」だと私は考えます。

(8)読書によって得られるのは思慮深さです。「読書による思慮深さ」を身に着けている人はものごとを深く考えますし、身に着けている「語彙(ごい)数」が多いため読む力が高いと言えます。教科書や試験問題を含め、文章を読み解き「理解」することができますので、自ずと「学力の高い人」となります。

(9)読書と同時に、「新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力を身に着けている人」も「学力が高い人」に多いと思われます。「新聞は社会の番犬(watch dog)」「社会の問題点・社会の取り組むべき課題はここにあると読者に知らせることが新聞の社会的役割」と考えて命を懸けて記事を書き続け、それを編集し、発行し続けるのが新聞記者、新聞社の社会的使命です。

そのような新聞が、毎日、日本全国の家庭に届けられます。日本の新聞は素晴らしいもの、日本の誇るべき文化の1つです。

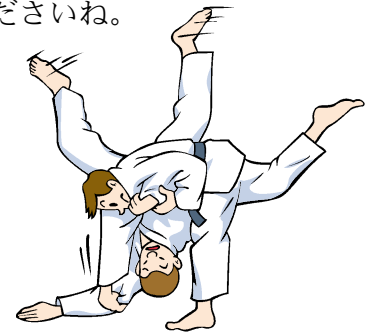
是非、皆様も1日に30分以上は新聞を1面からなめるように読み、今、地域や日本、世界ではどのようなことが起こっているのか、これからの地域や日本、世界はどうなるのかを自分の力で考え、批判的思考能力を養い、果たしてこれでよいのか、ではどのようにしたらよいのかを自分の力で考えてくださいね。



Q 16：最後に、林さんの好きなことばを紹介してください。

- A : (1)「ブルドッグ魂」
(2)「練習で泣いて試合で笑え」
(3)「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心に取り組もう)
(4)「会った人は皆友達」
(5)「離見の見(りけんのけん)」(舞台上で踊っている自分を離れている客席から見ること)
(6)「教育ある人とは、学校を卒業したあともずっと学び続ける人」
(7)「一生勉強、一生青春」
(8)「健康第一」(心の健康、身体の健康)

御清聴ありがとうございました。



感謝